

する。化した仔龜の大多數が濱の砂倉から這出で、直ぐ海中に泳ぎ出で、或は章魚に喰はれ鯛にくはれて、生立つものは誠に少い。それで卵の數の多い割合に、海には龜の數が少い、といふ話である。六七月の候、汐干狩に磯に行つた時、注意して見たまへ、稀には可愛い龜子君の泳いで居るところともあらう。

以上、龜の兒頂戴に關する話、如件。淡水に産する水龜又はスツポンなどの習性などに關しては別に項をかいて話さう。



喜多方行

川口 得

命を承けて、七月十三日より數日間、保育に關する實地指導の爲、福島縣下喜多方町に赴きしてとあり。

郡山より出で、岩越線の鐵路により、西に向へば、汽車は堀の内安子が島を經て熱海に進む。阿武隈沿岸の平野茲に盡きて、群山漸く路に迫る。

中山時にかゝれば、道の勾配急にして汽車の歩みゆるやかなり。數分間の暗をたどりて其の隧道を

出づれば、山いよく深くして墻壁をなし、大小の瀑流かして此處に懸りて、風、夏を洗ふ。此邊、冬日雪よけの爲にとて造られたる、板がこひの隧

道様のものの、今も残れるはまた異觀なり。

山瀧、關のと、川桁はなほ山路ながら、猪苗代より翁島に至る間、田甫や、開けゆきて、畔に生いたる櫨の木、繁りみどり深く、其木がぐれに、折

々のぞむ猪苗代湖は、漣波はるかにしてさながら海なり。磐梯山は北の方にて、雲際に聳えたるが、

所々、土わらはなる麓のけしきはいと眼近く、良瀬川を隔て、のぞみたる景色比なし。

若松はさすがに人家稠密にて、めあたらしき建物も多かるが、古城の跡も飯盛山もたゞ彼方ぞとのみにて、汽車は市の北端を過ぎてゆく。

之より西北の方に向ひてなほ平の中を進み、鹽川といふを經ば、郡山より四十五哩餘の鐵路ここに盡きて、乃ち喜多方町なり。

喜多方町は、會津平の北方につきんとする所にあり。羽越の諸山相交りて、小屋森、黒森、日影、夫婦、加納、高曾根、等の雄峯、たゞ一帯をなして、近く西より北に亘り、分水の諸嶺亦東南の方に、やゝはるかに延びたり。

山、いづれも青ければ、木々の下露岩も水も、また豊かにして、幾十條の細流は、清く人家を縫ひて走る。

周囲の田甫廣からざれども土黒くして稻、麥、蔬菜、特に桑の栽培に適したるが如し。

人口千許。喜多方は、實に若松と相對して、會津平に於ける一中心なり。

商業は、古來この地の主なる生業なりけるが、近時は、有司の奨勵によりて、特に製糸の業に従事するもの多きを加へ、規模宏大なる製糸工場各所に設けられたり。

家富みて生計豊かなれども、人皆勤勉にして、中流下流もしくは上流のものに至るまで、婦女も悉く此の製糸の業に従事して、家に徒食するものなく此婦人の活動盛にして而も健全なれば、一般の風俗もおのづから純潔なり。

此町に幼稚園あり、喜多方幼稚園といひて、同情會といへる婦人團體の設立する所なり。

同情會といへるは、此地に於ける唯一の婦人團體にして、一千餘の會員を有す。元來會員は、貴賤老少となく、しばしば相集まりて、智を磨き徳を修め業につとめ相歡悞するを例として、苟も生計の餘暇を徒らにせざる、まことに比び少なき美風あり。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

之等同情會員は、また悉くかの愛國婦人會員にして、恰も同情會といへるは、喜多方に於ける愛國婦人會の半面なるが如し。

かくて、此團體は、三十七八年戰役の當時、軍人遺族殊に其幼兒を數多收容して養護し、其功績も少からざりけるが、戰をさまると共に、其の事業も要なくなりければ、更に戦後の紀念として、事を選びて、此の幼稚園を設立するに至りたるなり。爾來三ヶ年に亘りて、此の幼稚園は、たゞ同情婦人會員が月々各自に支出する、僅少の會費のみを以て維持せられ、以て今日に至りたれば、規模素より大ならず。

いろに別たれたる二ヶの保育室。
遊嬉室と唱ふる一ヶの室。
保母室。小使室。昇降口。便所。のむとさきも、狭くかつ粗造にして、辛うじて其用を便するにといまり、

遊園また十數坪にして、かりそめの花壇、砂場の外は何の設備を施さんに殆ど所なきが如く、園外に、町の公園を稱して二十七八年の戦役の紀念碑など建てられたる、さゝやかなる空地のあるを利用して、園兒の遊ぶにまかせ、僅におふるゝを免れたり。

園兒百名は、二組に分たれて、三名の保母は、其の保育の實際にあたり、一名の下婢ありて雑務をとる。

園長を原平藏氏といふ。喜多方町長にしてまた同情婦人會長たり。明治の初、政界の混沌たりし頃、錚々たる志士として、幾多の辛酸をなめられけるが、一朝脱然としてこの喜多方の郷に長となり、茲に殆ど二十年、殖産に興業に一般の教育に、實績を挙げられけるは言はずもがな、幼兒保育の上にも、また甚だ熱心にして、かのれが此地に赴くに至れるも、實に、原氏が此園の長として我が高嶺校長に、切に圖られけることありけるが爲なりけり。

設備の不完全は此の如く、其の保育の方法に於て未だ熟せざる所なしとしがたけれども、園内外の、常に清潔に取なされたる。幼兒の純朴にして可憐なる。又、其幼兒が世に比ひなく保母を慕へる。等見るからに快よく、先づ當事者が、勤勉熱誠の程の現はれたるもうれしきに、此の如く熱心なる園長を頂き、篤志なる幾多婦人會員の後

援ある此の幼稚園が、前途の發展は決して想像しがたきにあらずと覺ゆ。

おのれ、數日の間此の地にありて、朝には慈母の如き保母と共に、純朴可憐なる幼兒と伍して生活し、夕には、數多の熱心なる地方教育家諸氏と交りて其の道を語り、うち仰ぐ青山の姿も、袖濡らす涇流のせゝらぎも、只、歡樂の色と見、聲と聞きて飽かざりき。

保育の事、理に於て欠くべからざる必要ありて、而も、實績未だ世に普からず、幸に、此かる邊境の地に於て此業の發展を望み得たるよろこびと共に、記し置きて後の思出とせん。

記者白す

本會幹事川口氏該地に逗留中は園長原氏を主とし其他一般人士より同氏に致されたる歡待頗る厚く本會の深く感謝する所なり茲に謹んで謝意を表す

